

全道11月中の交通事故分析について (過去5か年死亡・重傷事故)

令和2年10月7日
警察本部交通企画課

【概況】

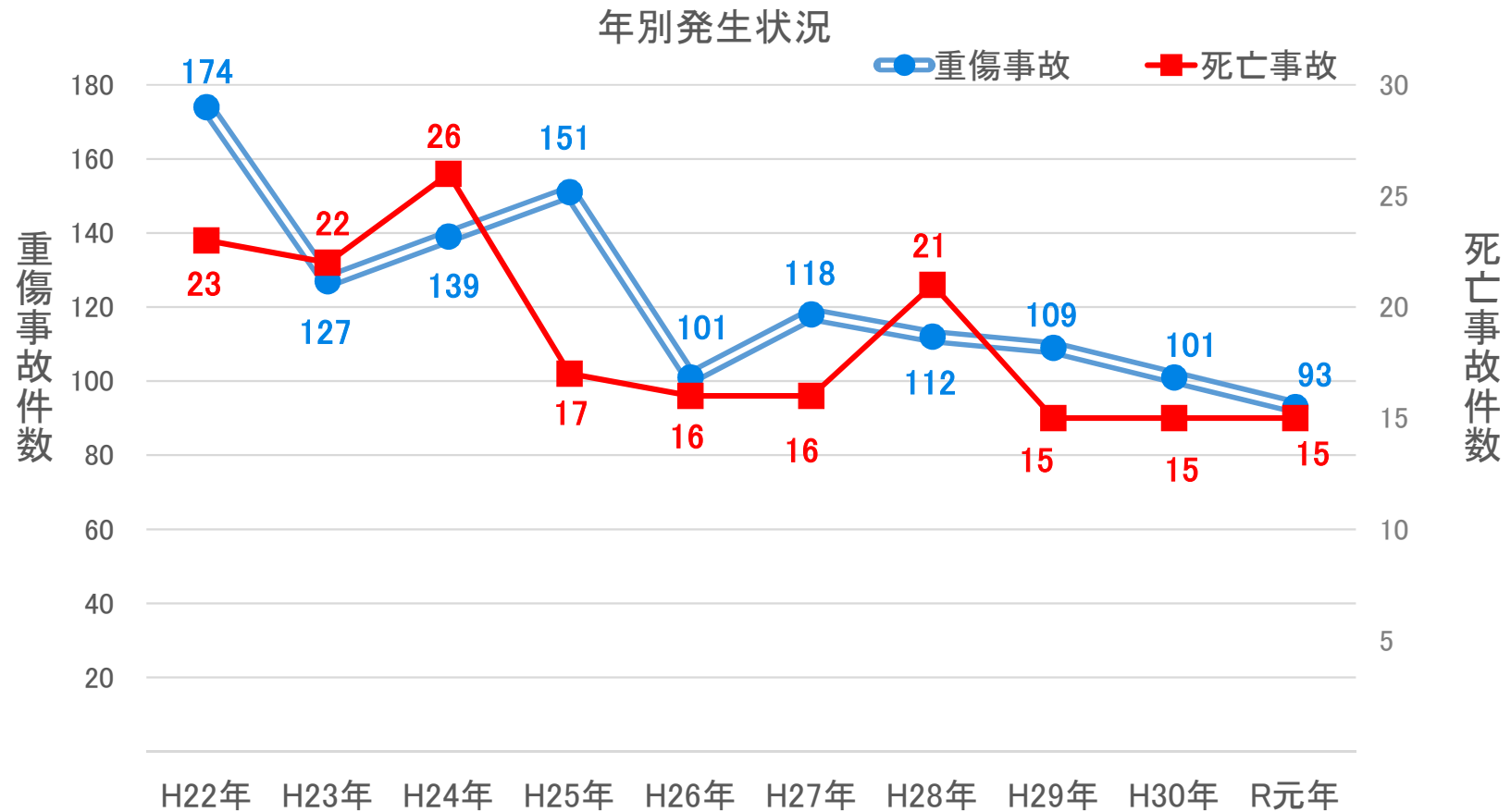
- 事故類型は、人対車両が最も多く、次いで自転車対車両が多い。
死亡事故については、人対車両が最も多く、次いで車両単独が多い。
- 四輪乗車中の死者のうち、4割以上がシートベルト非着用で、非着用のうち7割以上がシートベルトを着用していれば助かった可能性が高い。
- 人対車両は、時間帯別では16時から18時が最も多く、次いで18時から20時が多い。
地形別では市街地の交差点が最も多い。
- 人対車両の第1当事者(車両)の違反別では、歩行者妨害及び前方不注意が最も多く、次いで安全不確認が多い。
- 正面衝突及び車両単独は、時間帯別では8時から10時が最も多く、次いで16時から18時が多く、地形別では非市街地の直線が最も多い。
また、スリップが要因となる事故の時間帯別では、8時から10時が最も多く、次いで6時から8時が多い。

(注)本資料は、令和元年12月末日までに入手した11月中発生 of 事故データにより作成したものである。

1-1 年別死亡・重傷事故発生状況

年別の死亡事故件数については、増減を繰り返しているが、平成29年以降は横ばいとなっている。

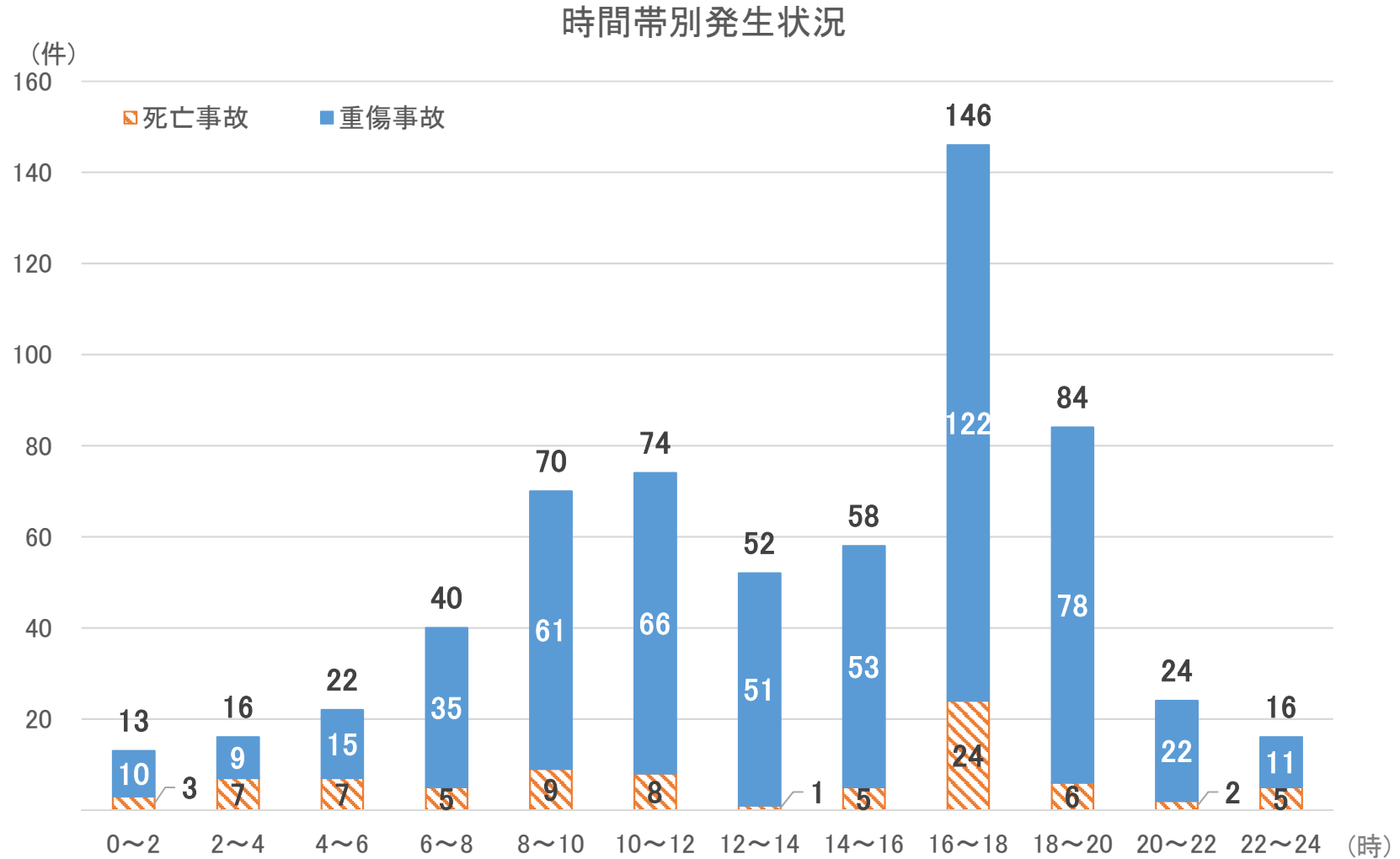
重傷*事故件数については、平成27年以降減少傾向を示している。



※ 「重傷」とは、交通事故によって負傷し、1か月(30日)以上の治療を要する場合をいう。

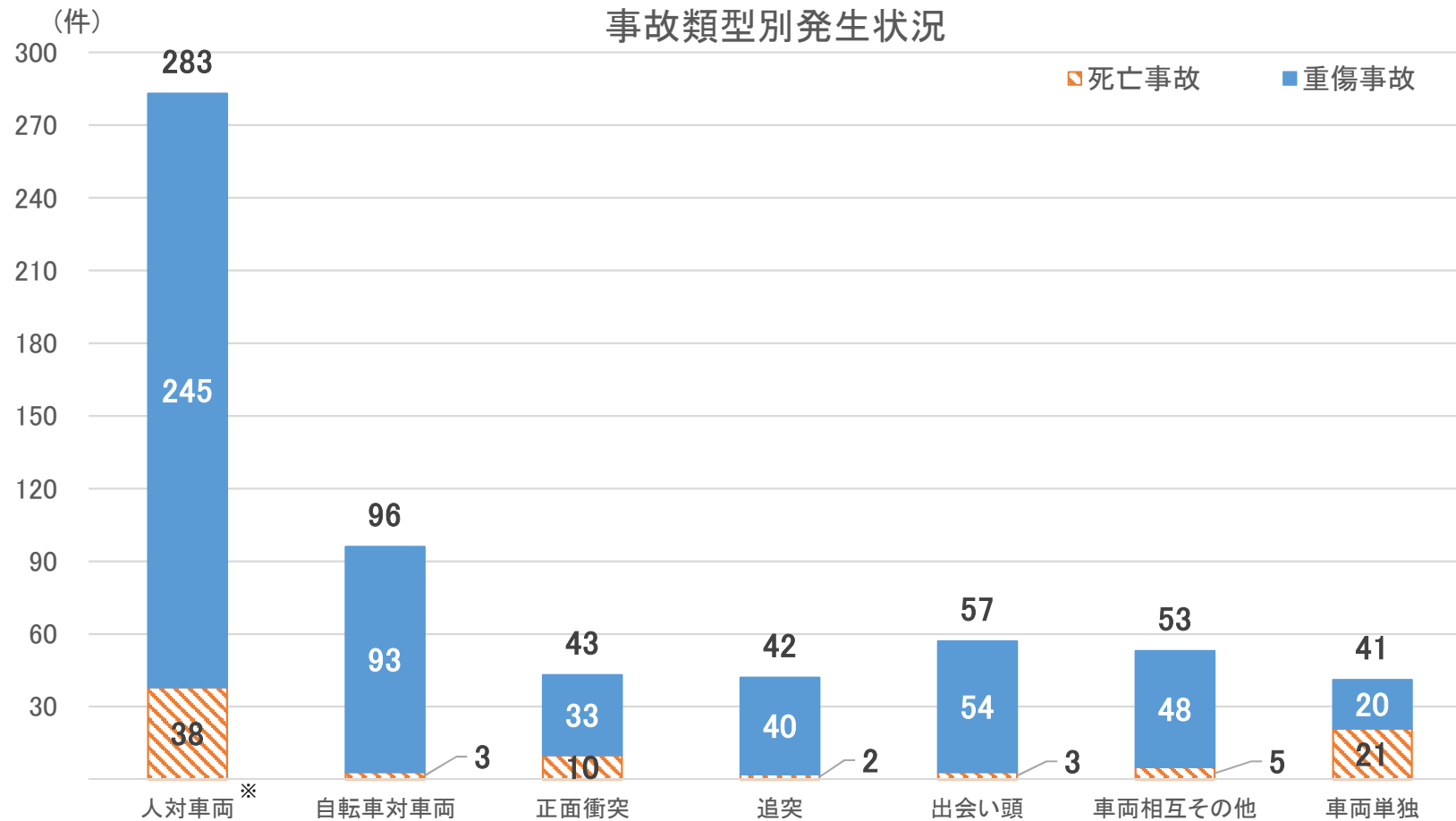
1-2 時間帯別死亡・重傷事故発生状況

16時～18時が最も多く、次いで18時～20時が多い。



1-3 事故類型別死亡・重傷事故発生状況

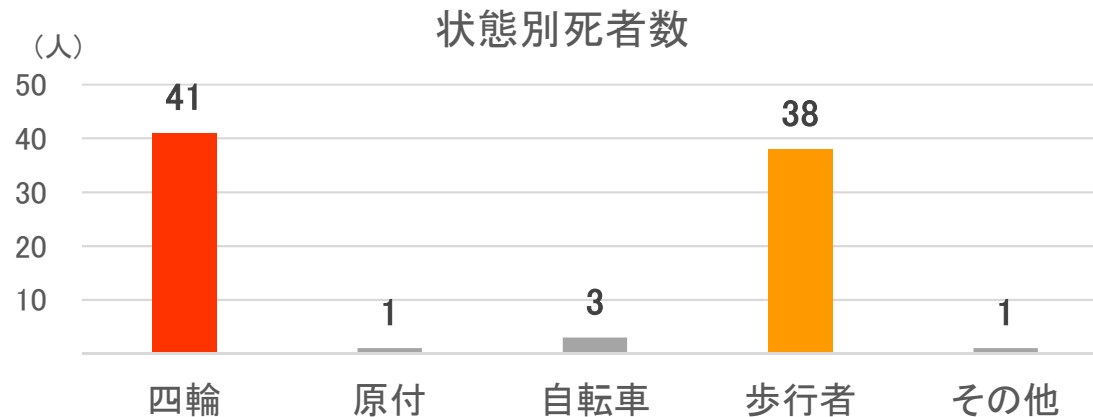
人対車両が最も多く、次いで自転車対車両が多い。



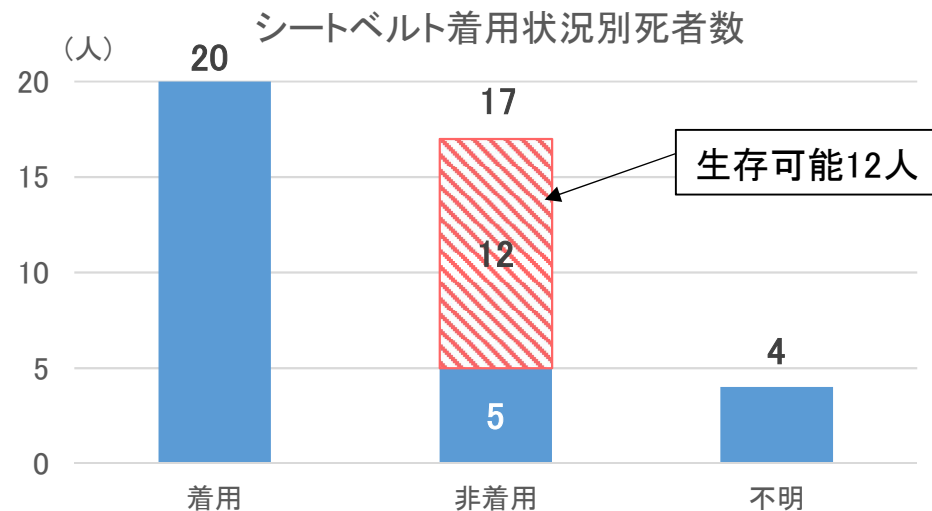
※ 「人対車両」は、「人対自転車」を含む。

1-4 状態別死者数、シートベルト着用関係

状態別死者数は、四輪乗車中が最も多く、次いで歩行者が多い。

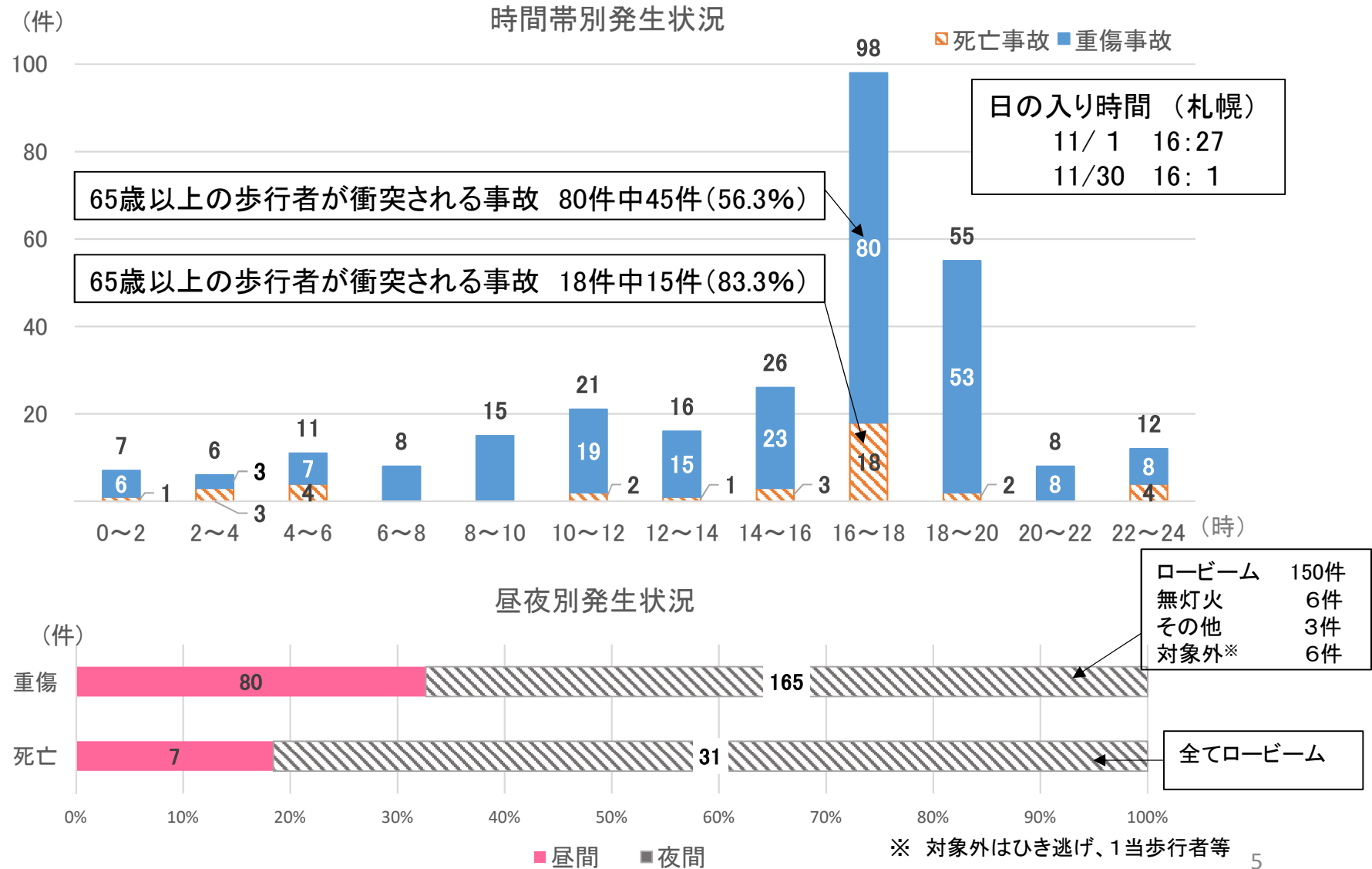


シートベルト着用対象者(四輪)の死者41人中、シートベルト非着用者は17人(41.5%)であり、このうち12人(70.6%)はシートベルトをしていれば助かった可能性が高い。



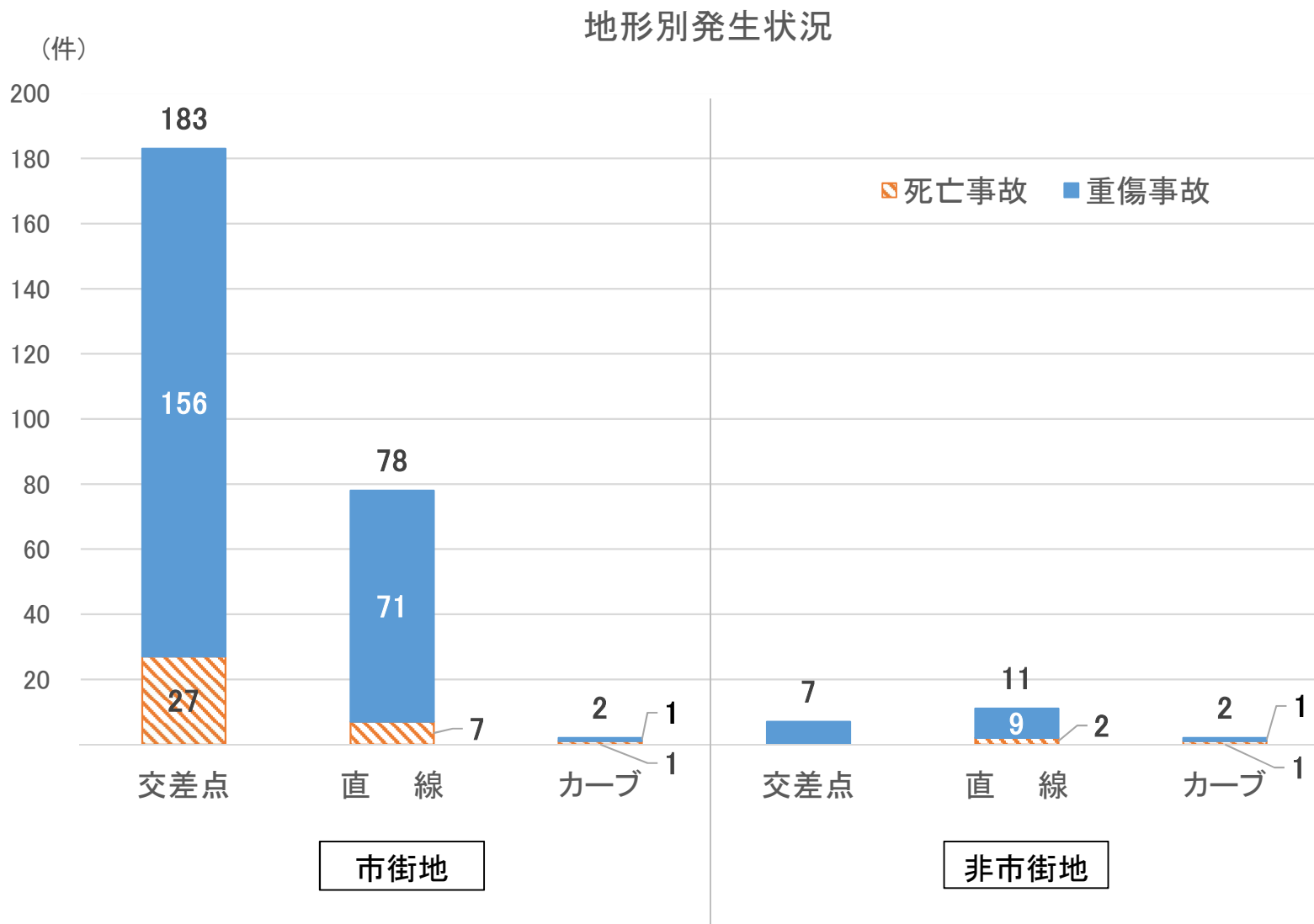
2-1 人対車両における時間帯別発生状況

16時～18時が最も多く、次いで18時～20時が多い。



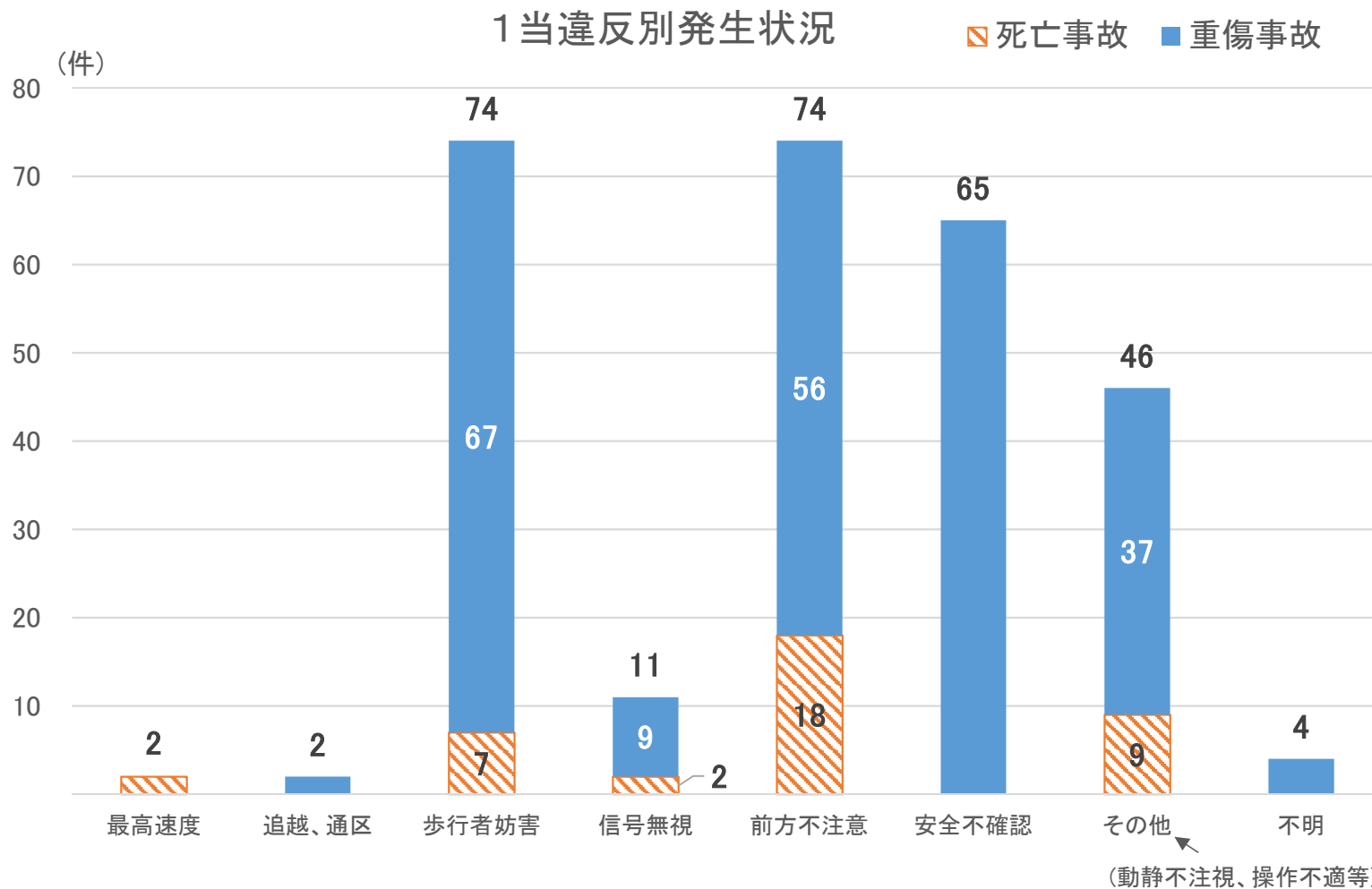
2-2 人対車両における地形別発生状況

市街地交差点及び直線で9割以上を占めている。



2-3 人対車両における1当の違反別発生状況

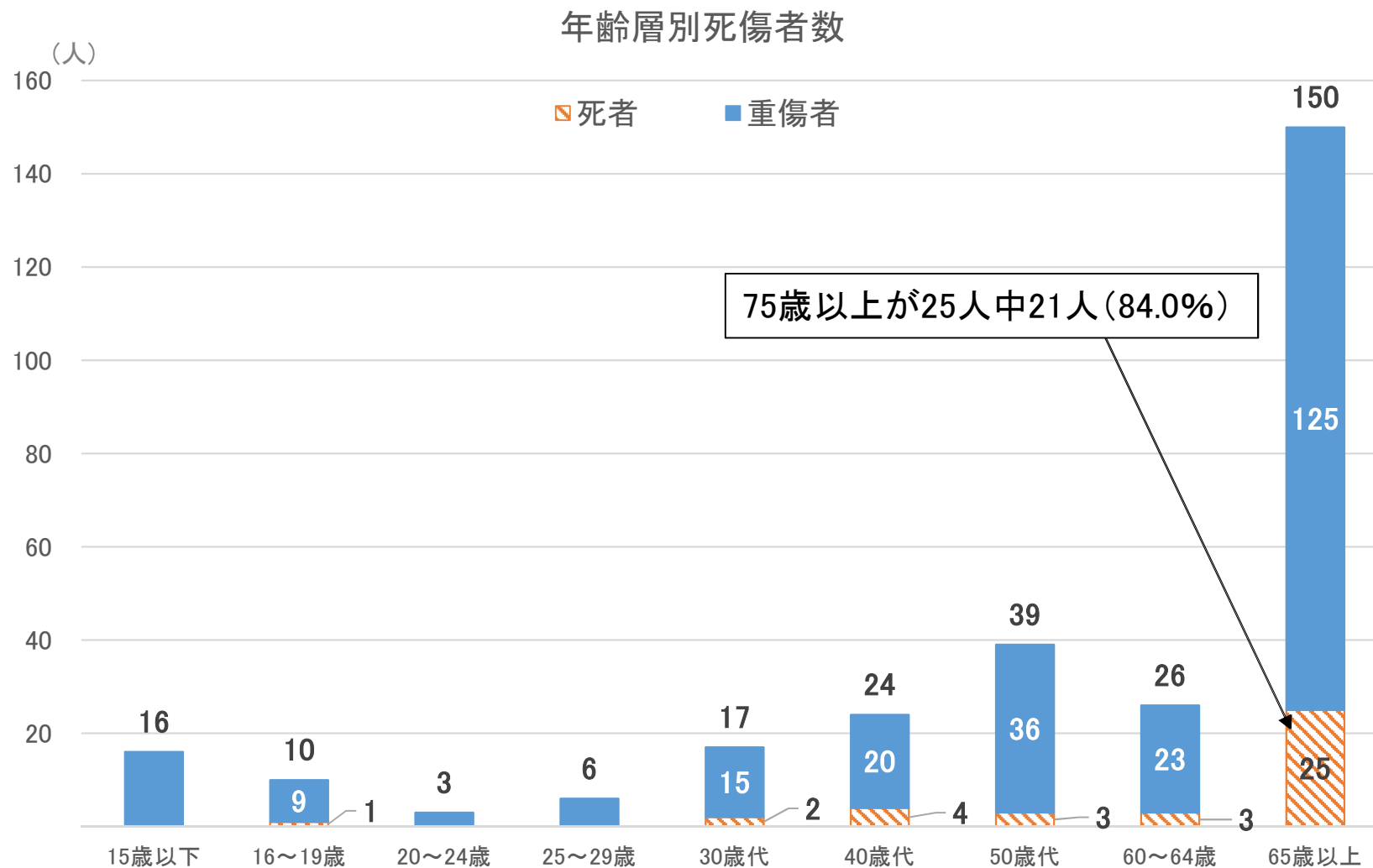
歩行者妨害及び前方不注意が最も多く、次いで安全不確認が多い。



※ 1当が歩行者及び自転車の場合を除く

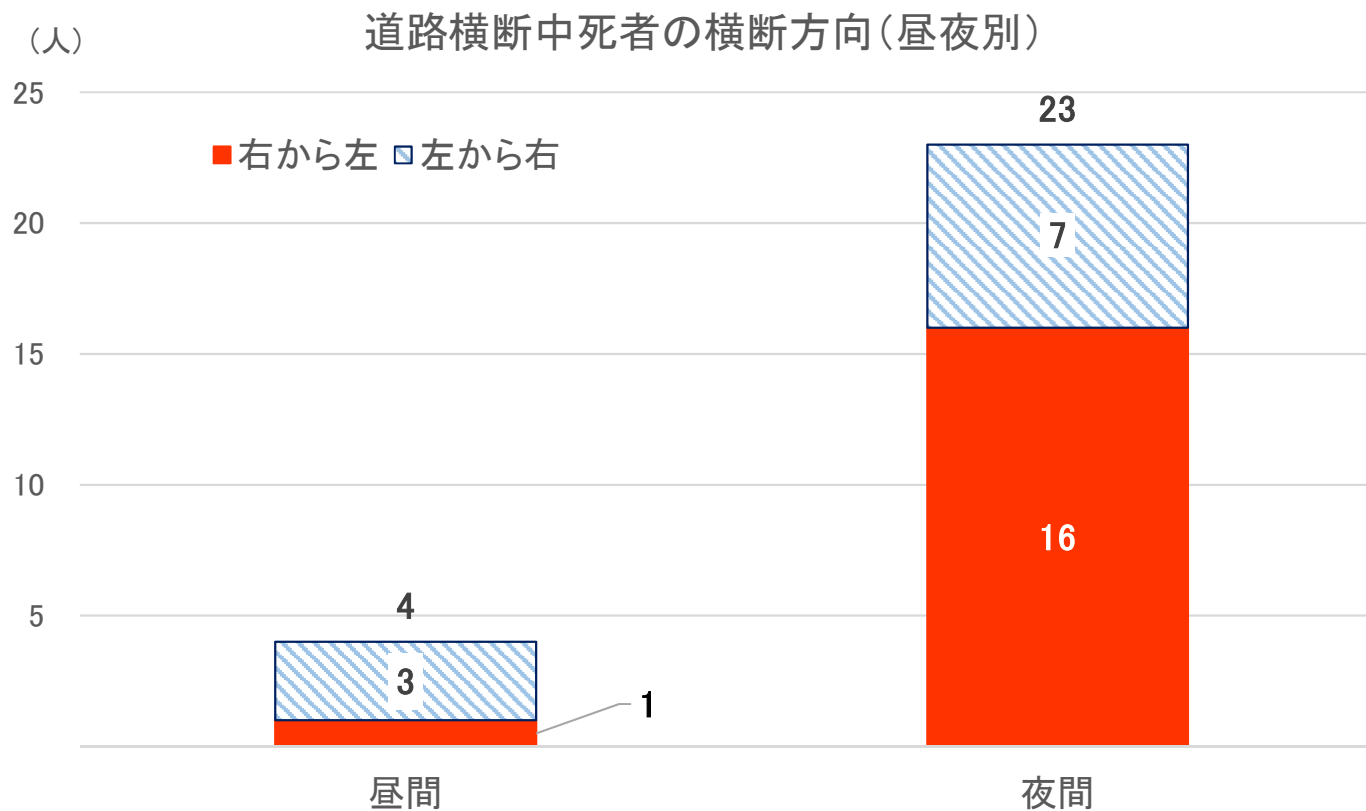
2-4 人対車両における年齢層別死傷者数

65歳以上が最も多く、全体の5割以上を占めている。



2-5 人対車両における歩行者の横断方向別死者数

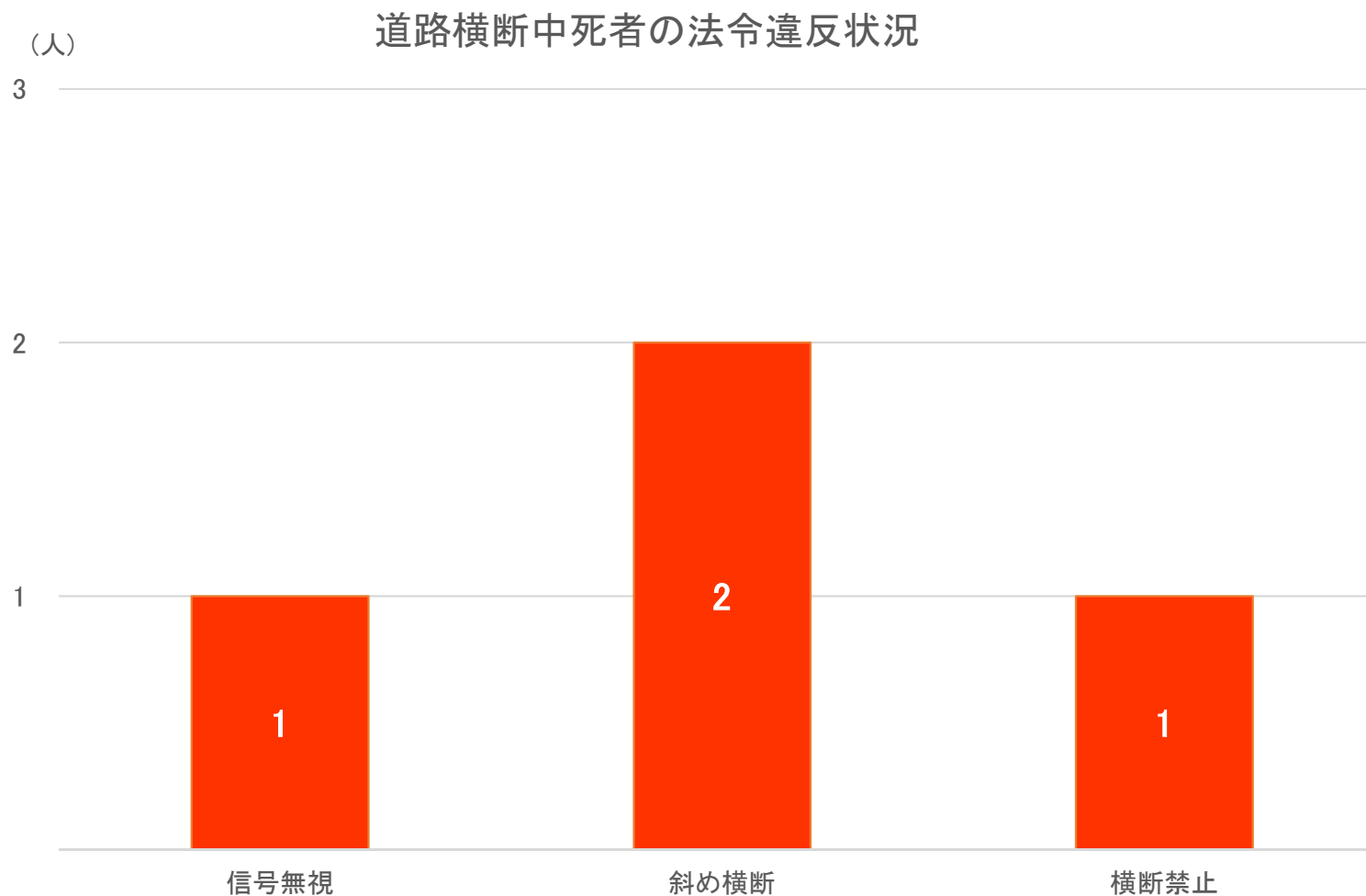
人対車両における道路横断中の死者27人のうち、昼間が4人、夜間は23人となっており、夜間の死者の約7割が右から横断中である。



昼間～日の出から日の入りまで
夜間～日の入りから日の出まで

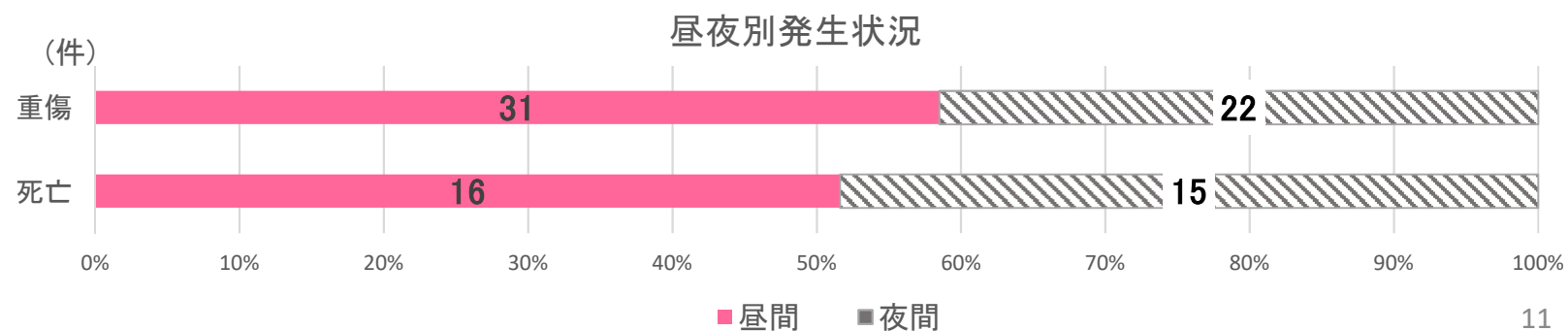
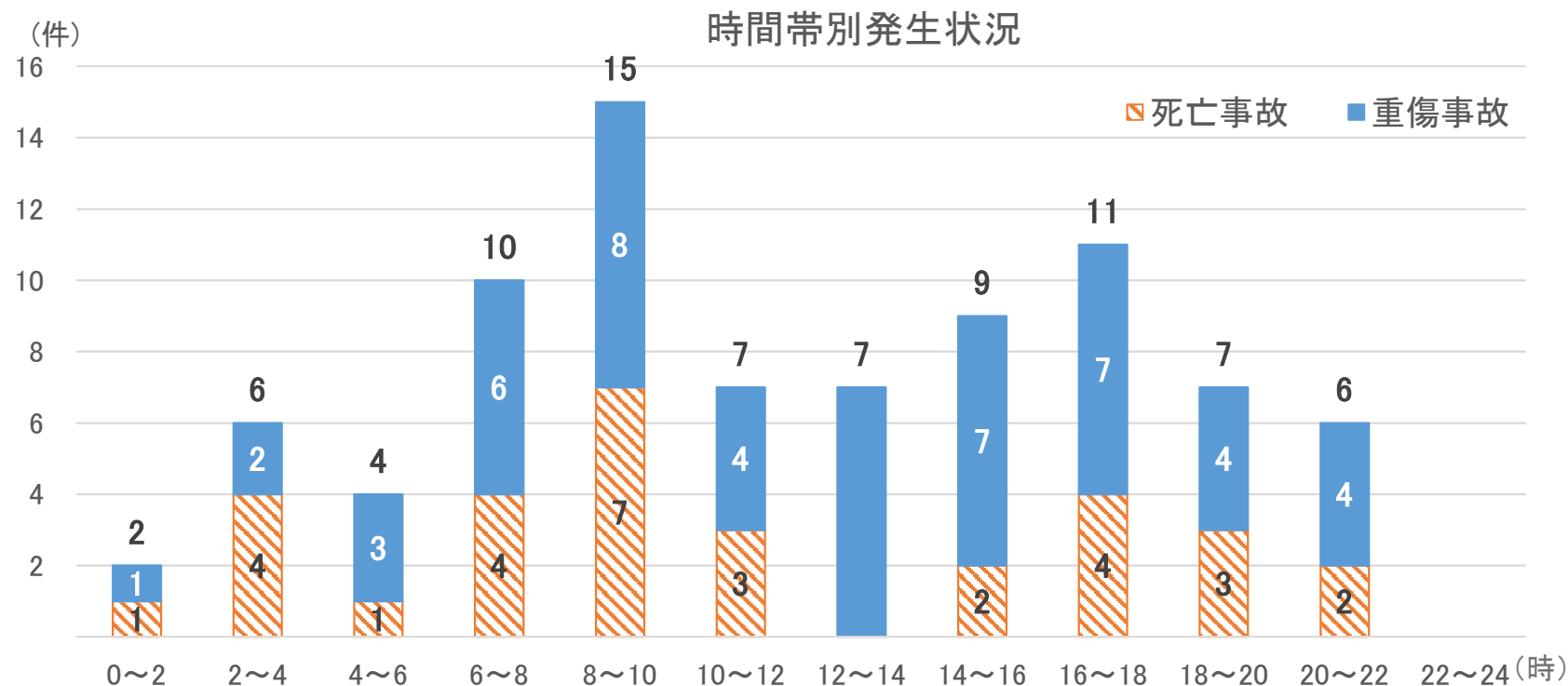
2-6 人対車両における道路横断中死者の法令違反状況

人対車両における道路横断中の死者27人のうち、斜め横断などの「違反あり」が4人(14.8%)となっている。



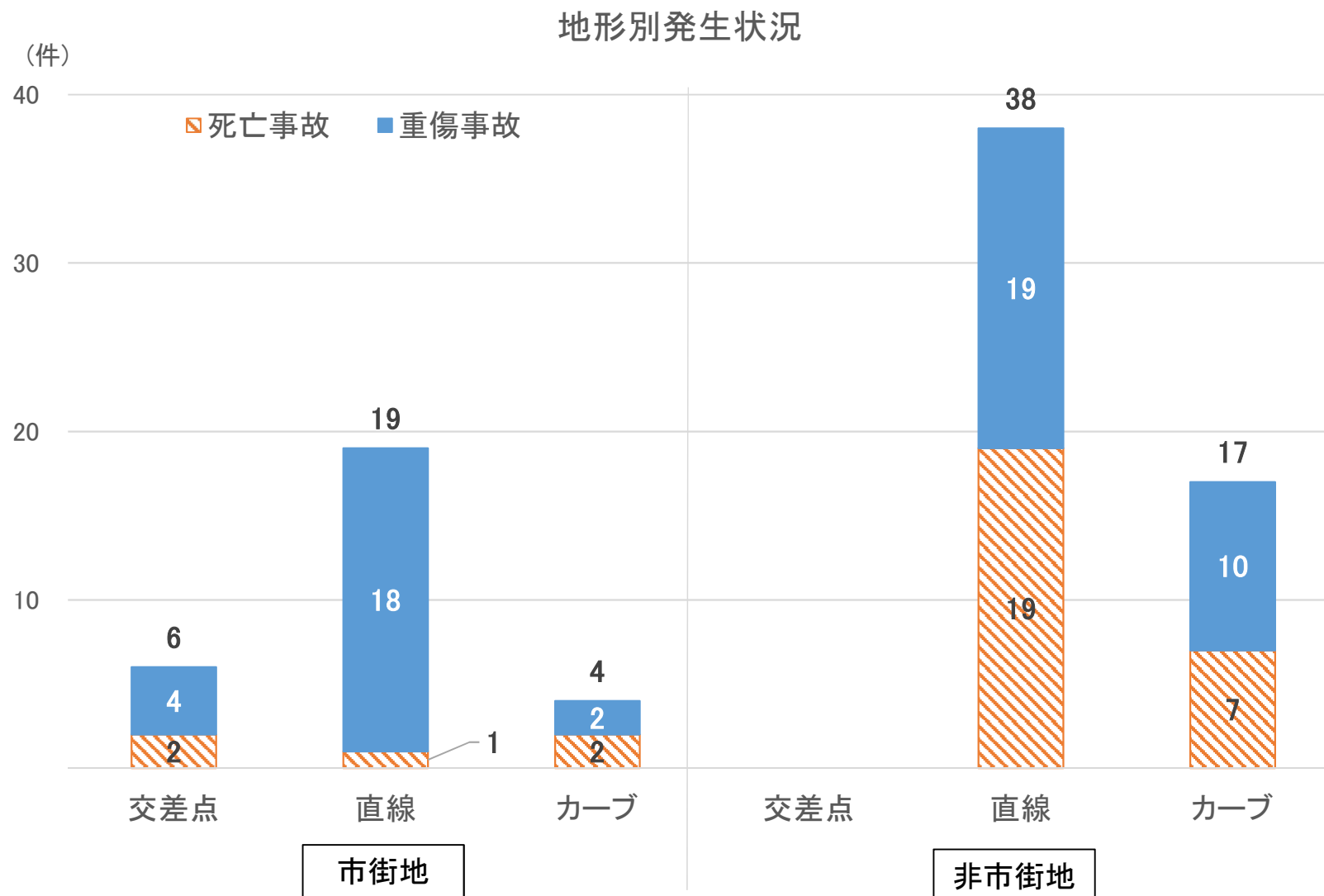
3-1 正面衝突・車両単独における時間帯別発生状況

8時～10時の発生が最も多く、次いで16時～18時の発生が多い。



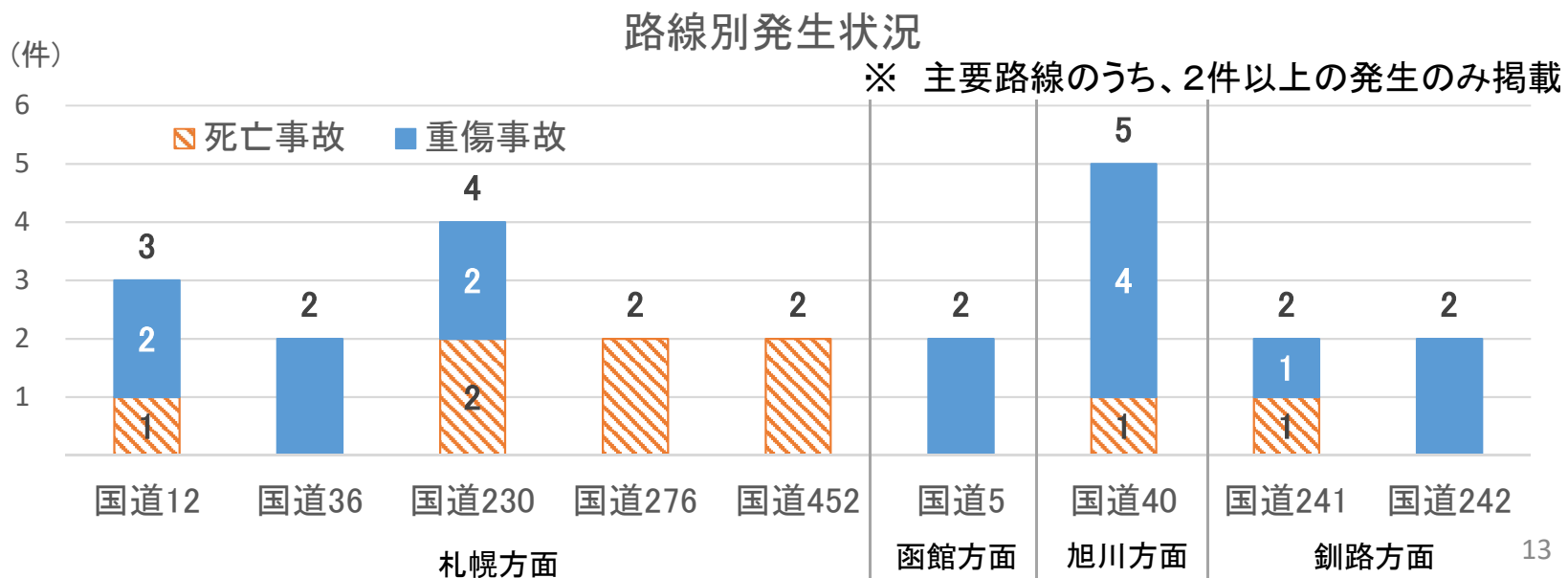
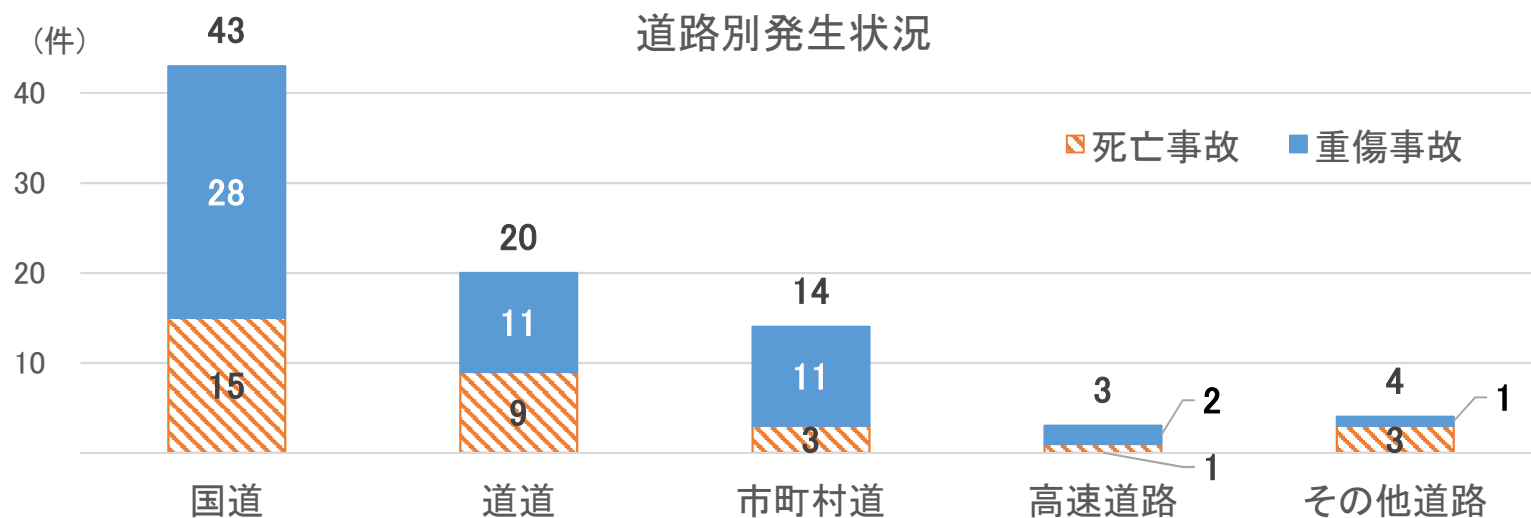
3-2 正面衝突・車両単独における地形別発生状況

非市街地直線が最も多く、次いで市街地直線が多い。



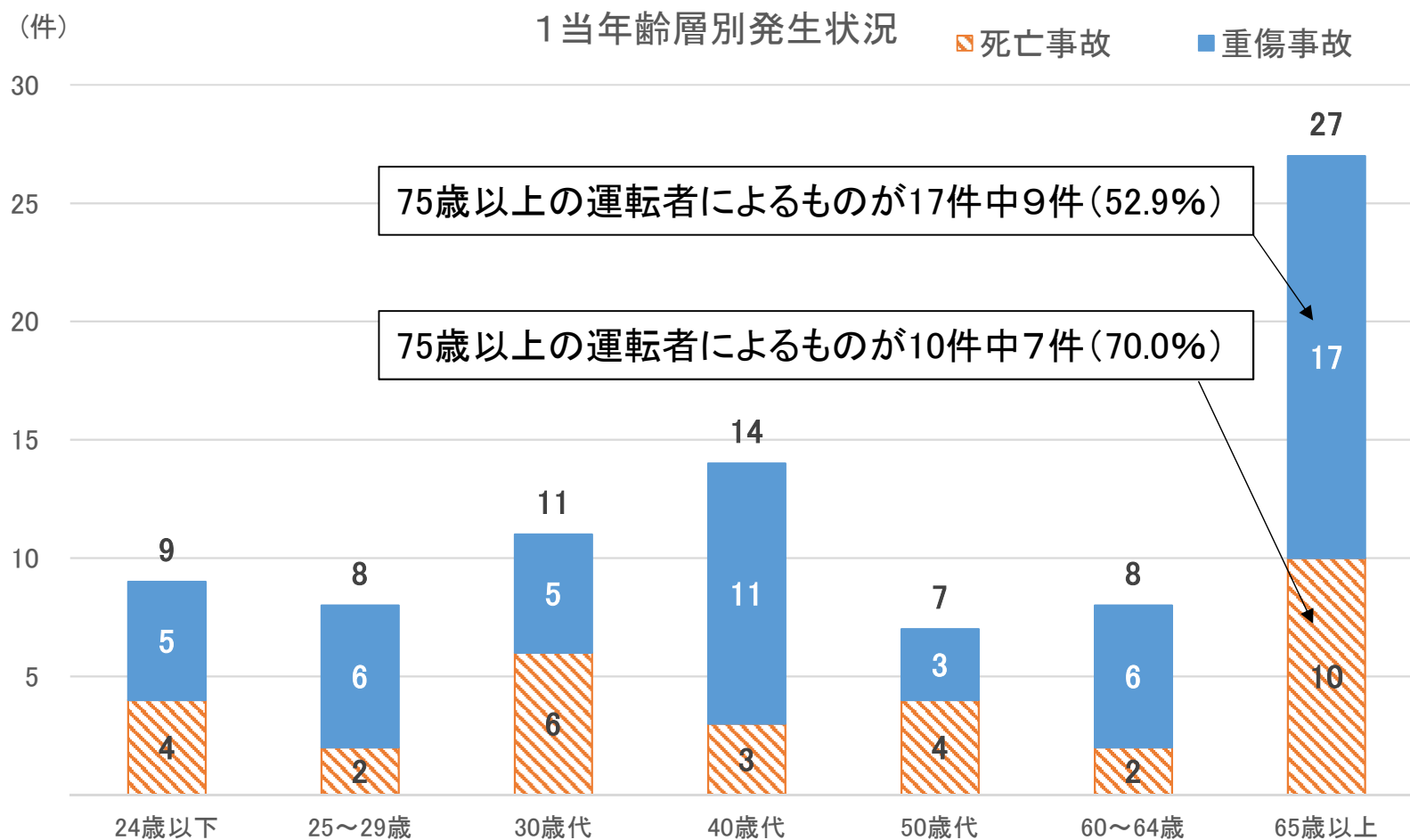
3-3 正面衝突・車両単独における道路別発生状況

国道及び道道での発生が約8割を占めている。



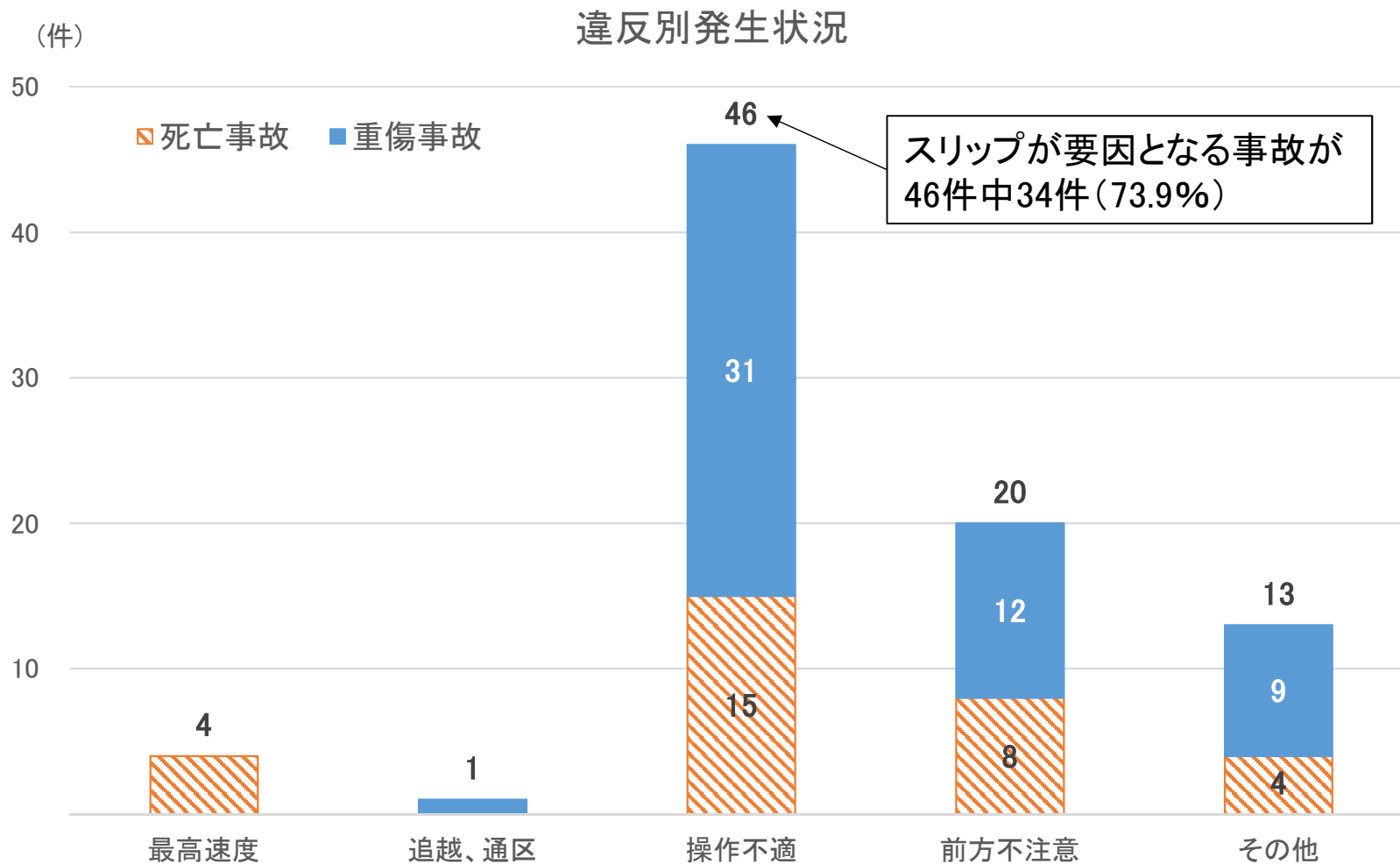
3-4 正面衝突・車両単独における1当の年齢層別発生状況

65歳以上が最も多い。



3-5 正面衝突・車両単独における1当の違反別発生状況

操作不適が最も多く、次いで前方不注意が多い。



3-6 正面衝突・車両単独におけるスリップ事故の時間帯別発生状況

8時～10時の発生が最も多く、次いで6時～8時の発生が多い。

